

竹野川流域の遺跡

2013.1

京都府立丹後郷土資料館

北からみた三坂神社墳墓群 (1992年調査)



扇谷遺跡の環濠
扇谷遺跡は、竹野川中流部の平野部を見下ろす丘陵地に営まれた、弥生時代前期の集落遺跡である。断面「V」字状に掘られた大規模な環濠が掘り巡らされている。この地を本拠として竹野川流域に水稻耕作が始められた。



途中ヶ丘遺跡の環濠
鱒留川に面する段丘上に営まれた、大規模な集落跡である。弥生時代前期末頃から後期にかけて存続した複合遺跡で、各時代の環濠や竪穴式住居跡などの遺構に伴い、土器・石器・玉作り関連遺物などの多様な遺物が見つかった。



西からみたカジャ古墳
長軸73mの楕円形の墳丘をもつ前期古墳。竪穴式石室1基、木棺直葬3基で構成される主体部から、鏡・玉・刀剣・筒形銅器・鍬形石・車輪石・石釧などの副葬品が見いだされた。4世紀後半頃に竹野川中流部を治めた王の墓である。



史跡赤坂今井墳墓の墳頂部で見つかった墓穴
赤坂今井墳墓は、一辺40m弱、高さ4mの規模を誇る北近畿では最大規模の弥生王墓である。ガラス勾玉・ガラス管玉・碧玉管玉などをちりばめた豪華な頭飾りや東海地方から運びこまれた土器などが出土した。弥生時代後期末頃に丹後半島一帯を治めた王の墓とみられる。



大田南5号墳の石室と鏡
丘陵地に営まれた一辺20m未満の小規模な古墳時代前期の方墳である。組合式石棺から鉄刀・銅鏡・人骨が出土した。鏡には青龍三年(235)の年号が刻まれている。



2基並ぶ七尾遺跡の方形台状墓
扇谷遺跡とは谷一つ隔てた丘陵上に築かれた、弥生時代前期の四角い墓。扇谷遺跡に関連する、丹後半島最古の弥生墳墓である。



女性の人骨がよく残っていた大谷古墳の石棺
大谷古墳は、4世紀後半頃に竹野川上流部を治めていた女王の墓である。墳丘は前方後円墳、鏡・玉・剣からなる三種の宝物をもつ。緑色半透明の勾玉は、良質のヒスイ製で美しい。



三坂神社3号墓の木棺内部の様子
竹野川上流部の平野を広く見渡せる丘陵上に営まれた弥生王墓。中心埋葬の箱形木棺から、素環頭鉄刀・ガラス勾玉・ガラス管玉・ガラス小玉・水晶玉などの豊富な副葬品が見つかった。弥生時代後期初頭に築造された。



大宮売神社
竹野川右岸の沖積平野に鎮座する大宮売神社は、広く地元の崇敬を集める延喜式内社である。境内地からは石製模造品・手づくね土器・勾玉などの祭祀遺物が出土、古墳時代の祭祀遺跡と式内社が重複する貴重な遺跡として、府の史跡となっている。



南からみた大田鼻横穴群
丘陵の腹面に掘られた墓室が30基ならぶ。古墳時代後期から奈良時代にかけて連続と営まれた群集墓の一種である。奈良時代の横穴から墨書土器が出土していることから、官人層の墓も含まれるとみられている。



大田南2号墳の埋葬施設
竹野川を見下ろす丘陵の頂部を占める、一辺約20mの方墳。舟形木棺から鉄剣・銅鏡などが見いだされた。鏡は中国製で、三国時代に作られたと思われる。出土した土器の型式から、古墳時代前期の築造と推定される。



坂野丘墳墓第2主体部の弥生土器
平野部に舌状に張り出した丘陵の頂部に築かれた弥生王墓。木棺直葬と思われる主体部から、ガラス勾玉・ガラス小玉・碧玉管玉などの豊富な遺物が見つかった。弥生時代後期後半に竹野川中下流域を治めた王の墓とみられる。



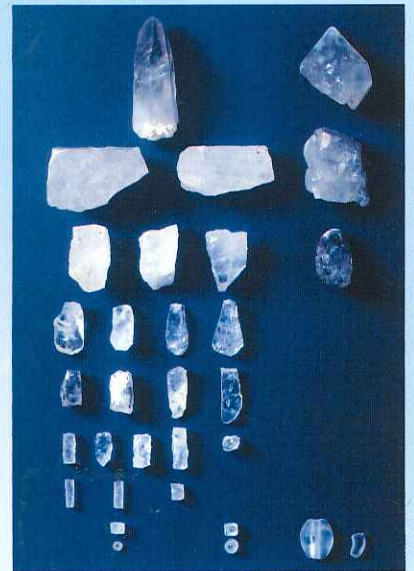
南からみた奈具岡遺跡の方形貼石墓
四角い墳丘の斜面に平たい自然石を貼り付けた弥生時代の王墓。河内地方から持ち運ばれて来た土器片が出土していることから、被葬者と河内地方との関係が想定される。弥生時代後期。



陶埴 扇谷遺跡・途中ヶ丘遺跡 弥生時代前期
おもに山陰地方の弥生前期の遺跡から出土する土笛。
丹後の弥生文化が対馬海流を利用して山陰地域から
伝播したことを物語る。



ガラス勾玉・ガラス管玉・ガラス小玉・水晶玉
三坂神社3号墓 弥生時代後期 府指定文化財



水晶玉作りの工程
奈具岡遺跡 弥生時代中期 重要文化財



画文帯環状乳神獣鏡
大田南2号墳 古墳時代前期 府指定文化財
鈕の部分に龍の図柄が鑄だされた珍しい鏡。



方格規矩四神鏡
大田南5号墳 古墳時代前期 重要文化財
中国魏の年号、青龍三年(235)の銘文が鑄だされた鏡で、
邪馬台国時代の鏡として注目された。



方格渦文鏡
カジヤ古墳 古墳時代前期 府登録文化財



豪華な頭飾りと耳飾り
赤坂今井墳墓 弥生時代後期 府指定文化財



弥生土器壺 赤坂今井墳墓 弥生時代後期 府指定文化財
粘土紐を縦横に貼り付けた土器で、東海地方から持ち運ばれてきた
と考えられている。



碧玉管玉 坂野丘墳墓 弥生時代後期



車輪石・石釧・鉄形石
カジヤ古墳 古墳時代前期 府登録文化財
碧玉を加工して作られた、腕輪形宝器。3種の腕輪
形宝器をもつ古墳は、北近畿では他にみられない。



鉄地金銅張馬具 西外1号墳 古墳時代後期
鐘形鏡板(左)は轡の部品で、馬の口を飾る。ハート形杏葉(右)は
革ベルトにとりつける馬の尻飾り。丹後では珍しい金色に輝く馬
装具である。



桶 古殿遺跡 古墳時代前期
楕円柱状に削り出された割りぬき式の桶。
高さ75cmで、別に加工された底板を外側から
はめ込む。井戸枠として転用されていた。

丹後遺跡めぐりシリーズ ⑤ 竹野川流域の遺跡

平成25年1月31日 初版発行
編集・発行 京都府立丹後郷土資料館
〒629-2234 京都府宮津市宇国分小字天王山611-1
TEL0772-27-0230 FAX0772-27-0020